



「伝土佐光信「源氏系図」をめぐって

源氏物語の絵画

会場	中之島香雪美術館（中之島フェスティバルタワー・ウエスト4階）
開館期間	2021年1月30日(土)～3月14日(日)
休館日	月曜日
開館時間	午前10時～午後5時（入館は午後4時30分まで）
主催	公益財団法人香雪美術館、朝日新聞社

出品リスト

会期中展示替えがあります。

前期：1月30日～2月21日　後期：2月23日～3月14日

I期：1月30日～2月14日　II期：2月16日～2月28日　III期：3月2日～3月14日

事情により一部作品が展示されない場合があります。

No. 指定	作品名	作者	員数	材質・技法	制作年代	所蔵	展示期間
一	源氏物語						
1	紫式部観月図	土佐光起（1617-91）	一幅	絹本着色	江戸時代17世紀	滋賀・石山寺	
2	源氏物語 附秋草時絵筆筥		五十四冊一合	紙本墨書表紙 紺紙金箔・金泥ほか	江戸時代17世紀	鶴見大学図書館	
3	源氏物語		五十四冊	紙本墨書表紙 紺紙金銀箔・泥ほか	江戸時代17世紀	香雪美術館	
二	源氏系図をめぐって						
4	源氏系図	表紙 伝土佐光信（1434?–1525?）	一帖	紙本墨書表紙 紙本着色	室町時代16世紀	香雪美術館	
5	源氏古系図 安養尼本		一帖	紙本墨書	江戸時代17世紀	鶴見大学図書館	
6	源氏物語冊子表紙摸本	住吉具慶（1631–1705）	一卷・四十一図	紙本墨画一部淡彩	江戸時代延宝3年(1675)	東京国立博物館	前期：御法、篝火、関屋、野分、手習後期：夢浮橋、夢浮橋、手習、薄雲
7	源氏物語表紙絵		一幅	紙本着色	桃山時代17世紀	香雪美術館	
8	源氏物語 蓬生・胡蝶・総角		三冊	紙本墨書表紙 紙本着色	室町時代16世紀	鶴見大学図書館	
9	扇面画帖(源氏物語ほか)		二帖・七十二面	紙本着色	室町時代15-16世紀	九州国立博物館	前期：上(見返、梅枝、紅梅、空蟬)下(末摘花、帯木、一ノ谷、唐崎)後期：上(浮舟、浜松図、朝顔、初音)下(紅葉賀、末摘花、花宴、垣に夏椿)
10	土佐光信像(土佐派絵画資料)		一枚	紙本墨画	江戸時代18世紀	京都市立芸術大学芸術資料館	
11	硯破草紙絵巻		一卷	紙本着色	室町時代明応4年(1495)	細見美術館	前・後期で巻替
12	地藏堂草紙絵巻		一卷	紙本着色	室町時代15世紀	個人蔵	前・後期で巻替
13	三条西実隆像紙形	土佐光信（1434?–1525?）	一枚	紙本墨画	室町時代文亀元年(1501)	東京大学史料編纂所	
14	◎実隆公記 文亀元年十月	三条西実隆（1455–1537）	一卷	紙本墨書	室町時代文亀元年(1501)	東京大学史料編纂所	後期
15	◎石山寺縁起絵巻 巻四	詞 三条西実隆（1455–1537）	一卷（七巻のうち）	紙本着色	室町時代明応6年(1497)	滋賀・石山寺	前・後期で巻替
16	◎実隆公記 明応六年四月～八月	三条西実隆（1455–1537）	一卷	紙本墨書	室町時代明応6年(1497)	東京大学史料編纂所	後期

特別展 Special Exhibition

No. 指定	作品名	作者	員数	材質・技法	制作年代	所蔵	展示期間
三	源氏絵の世界						
17	奈良絵本源氏物語	賢木・明石・絵合	三冊	紙本墨書絵 紙本着色	江戸時代17世紀	[賢木・明石] 鶴見大学図書館 [絵合]個人蔵	
18	源氏物語画帖 上巻		一帖・二十七図（二帖・五十四図のうち）	紙本着色	室町時代16世紀	京都国立博物館	I期：桐壺、帯木、空蟬、夕顔、若紫、末摘花、紅葉賀II期：花宴、葵、賢木、花散里、須磨、明石III期：薄標、蓬生、関屋、絵合、松風、薄雲
19-1	源氏物語図扇面	空蟬・梅枝・蓬生・絵合	四面（十二面のうち）	紙本着色	室町時代16世紀	東京国立博物館	前期：空蟬、梅枝後期：蓬生、絵合
19-2	源氏物語図扇面	早蕨・梅枝・須磨	四面（十二面のうち）	紙本着色	江戸時代18世紀	東京国立博物館	前期：梅枝、須磨後期：古筆了仲筆極書、早蕨
20	◎源氏物語手鑑	絵 土佐光吉（1539–1613）詞 烏丸光広（1579–1638）ほか	六場面（八十場面のうち）	絵 紙本着色詞 紙本墨書	桃山時代慶長17年(1612)	和泉市久保惣記念美術館	I期：絵合、夕霧一II期：帯木二、末摘花一III期：玉鬘一、玉鬘二
21	◎源氏物語画帖 乙帖	絵 土佐光吉（1539–1613）詞 後陽成天皇（1571–1617）ほか	一帖・十三場面（四帖・五十四場面のうち）	絵 紙本着色詞 紙本墨書	桃山時代17世紀	京都国立博物館	前期：玉鬘、初音、胡蝶後期：蓬生、関屋、絵合
22	源氏物語画帖下絵(土佐派絵画資料)		二枚	紙本墨画一部淡彩	江戸時代17世紀	京都市立芸術大学芸術資料館	
23	源氏物語帯木図屏風		六曲一隻	紙本金地着色	桃山時代17世紀	個人蔵	前期
24	道具画帖(土佐派絵画資料) 第三紙	土佐光吉（1539–1613）	一枚	紙本墨画一部淡彩	桃山時代慶長14年(1609)	京都市立芸術大学芸術資料館	前期
25	源氏物語夕霧図屏風		六曲一隻	紙本金地着色	江戸時代17世紀	九州国立博物館	前期
26	源氏物語図屏風		六曲一双	紙本金地着色	江戸時代17世紀	個人蔵	
27	物語図屏風		六曲一双	紙本金地着色	江戸時代18世紀	個人蔵	後期
28	源氏物語 若紫・紅葉賀図		対幅	絹本墨画淡彩	江戸時代19世紀	香雪美術館	
29	源氏物語花宴図		一幅	絹本着色	江戸～明治時代19世紀	香雪美術館	
30	源氏物語 花宴・須磨図		対幅	絹本着色	江戸時代19世紀	個人蔵	
31	源氏物語かるた		1組・108枚	紙本木版着色	江戸時代19世紀	鶴見大学図書館	
32	色絵源氏物語蓬生図香合	尾形乾山（1663–1743）	一合	陶器	江戸時代18世紀	個人蔵	
33	ふながたかなべ 船形爛鍋		一口	鉄製	江戸時代18世紀	香雪美術館	
四	本朝画事と村山コレクション						
34	本朝画事 住吉広賢訂正本		二枚	紙本木版墨刷	江戸～明治時代19世紀	香雪美術館	
35	◎病草紙 小法師の幻覺をみる男		一幅	紙本淡彩	平安～鎌倉時代12世紀	香雪美術館	後期
36	◎稚児観音縁起絵巻		一卷	紙本着色	鎌倉～南北朝時代14世紀	香雪美術館	前・後期で巻替
37	源氏物語藤裏葉図		対幅	紙本着色	江戸時代17世紀	香雪美術館	
五	光信以前の土佐派						
38	◎十王図		四幅（十幅のうち）	絹本着色	室町時代15世紀	京都・二尊院	前期：泰広王、泰山王後期：初江王、閻魔王
39	実隆公記(謄写本) 長享三年正月～六月/七月～十二月	原本 三条西実隆（1455–1537）	二冊	紙本墨書		東京大学史料編纂所	
40	○仏涅葉図	土佐行広（生没年不詳）	一幅	絹本着色	室町時代宝徳3年(1451)頃	京都・興聖寺	前期
41	阿弥陀二十五菩薩来迎図		一幅	絹本着色	室町時代15世紀	香雪美術館	後期



『源氏物語』五十四帖のあらすじ

第一帖 <p>きりつぽ 桐壺</p>	第二帖 <p>はほきぎ 帚木</p>	第三帖 <p>うつせみ 空蟬</p>	第四帖 <p>ゆうがお 夕顔</p>	第五帖 <p>わかむらさき 若紫</p>	第六帖 <p>すえつむはな 末摘花</p>
源氏 1~12歳	源氏 17歳	源氏 17歳	源氏 17歳	源氏 18歳	源氏 18~19歳
桐壺帝と桐壺更衣との間に光源氏誕生。母の死を経て、光源氏は父帝が新たに迎えた藤壺女御に憧れを抱く。	頭中将らの女性論(雨夜の品定め)に刺激を受けた光源氏は、紀伊守邸で空蟬と一夜をともにする。	空蟬への想いを募らせる光源氏。再び紀伊守邸を訪れ、空蟬とその娘・軒端笏の姿を目にする。	夕顔の美しい民家に暮らす女性(夕顔)と契るも彼女は不慮の死を遂げる。夕顔は頭中将の恋人で、娘(玉鬘)もいた。	藤壺を懐妊させてしまい、距離をおかれる光源氏。藤壺に似た少女(紫上)と出会い、養育することに。	頭中将と競って末摘花と夜を過ごすが、のちに彼女が醜女であることに気づき落胆する。
No.18	No.9, 18, 20, 22, 23, 26	No.9, 18, 19-1, 27	No.18	No.18, 28	No.9, 18, 20
※No.は出品される作品の番号					

第七帖 <p>もみじのが 紅葉賀</p>	第八帖 <p>はなのえん 花宴</p>	第九帖 <p>あおい 葵</p>	第十帖 <p>さかさき 賢木</p>	第十一帖 <p>はなちるさと 花散里</p>	第十二帖 <p>すま 須磨</p>	第十三帖 <p>あかし 明石</p>	第十四帖 <p>みおつくし 湊標</p>	第十五帖 <p>よもぎう 蓬生</p>	第十六帖 <p>せきや 関屋</p>	第十七帖 <p>えあわせ 絵合</p>	第十八帖 <p>まつかぜ 松風</p>
源氏 18~19歳	源氏 20歳	源氏 22歳	源氏 23~25歳	源氏 25歳	源氏 26~27歳	源氏 27~28歳	源氏 28~29歳	源氏 28~29歳	源氏 29歳	源氏 31歳	源氏 31歳
紅葉賀の試案で、光源氏は頭中将と青海波を披露する。光源氏の姿を見て罪の意識に苛まれる藤壺。	朧月夜に出会った女性(朧月夜)と扇を交わす光源氏。のちに、東宮への入内を控えた右大臣の姫であるとわかる。	六条御息所と正妻・葵上による騒動(車争い)。御息所の生霊に悩まされ、葵上は夕霧出産後に急逝。	伊勢へ下る六条御息所との別れ。光源氏の兄・朱雀帝寵愛の朧月夜と逢瀬を重ね、ある晩右大臣に見つかってしまう。	琴の音に惹かれてかつての女性を訪ねるも拒まれた光源氏を、憤しやかな花散里は親身にもてなす。	朧月夜との不祥事がもとで無冠となり、紫上と離れ須磨へ下向。侘びしく暮らす光源氏を明石入道は娘婿にと願う。	明石君に通ううち、彼女は光源氏の子を宿す。その頃、京から赦免の文が届き、光源氏は帰京することに。	藤壺の産んだ皇子(冷泉帝)が即位。帰京後、住吉詣に訪れた光源氏を偶然目にした明石君は、身分の差を思い知る。	荒唐した邸で光源氏を待ち続けた末摘花。その一途さに心打たれた光源氏は終生の庇護を約束する。	夫の赴任により東国にいた空蟬の帰京の一行に、逢坂関で偶然出会う。	絵を好む冷泉帝の寵愛を競って、御前で梅壺対弘徽殿の絵合が開催された。	大堰に移り住んだ明石君を訪れた光源氏は、娘と対面。その将来を思い、養育を紫上に依頼する。
No.9, 18, 22, 28	No.9, 18, 29, 30	No.18	No.17, 18	No.18	No.18, 19-2, 30	No.17, 18	No.18, 27	No.8, 18, 19-1, 21, 32	No.6, 18, 21, 26	No.17, 18, 19-1, 20, 21, 27	No.18

第十九帖 <p>うすぐも 薄雲</p>	第二十帖 <p>あさがお 朝顔</p>	第二十一帖 <p>おとの 少女</p>	第二十二帖 <p>たまかすら 玉鬘</p>	第二十三帖 <p>はつね 初音</p>	第二十四帖 <p>こちよう 胡蝶</p>	第二十五帖 <p>はたる 螢</p>	第二十六帖 <p>とこなつ 常夏</p>	第二十七帖 <p>かがりび 篝火</p>	第二十八帖 <p>のわき 野分</p>	第二十九帖 <p>みゆき 行幸</p>	第三十帖 <p>ふじばかま 藤袴</p>
源氏 31~32歳	源氏 32歳	源氏 33~35歳	源氏 35歳	源氏 36歳	源氏 36歳	源氏 36歳	源氏 36歳	源氏 36歳	源氏 36歳	源氏 36~37歳	源氏 37歳
明石姫君は光源氏の邸へと引き取られ、紫上に大切に育てられる。	光源氏と朝顔君との関係に悩む紫上を宥めるため、ある雪の日、光源氏は過去の女性たちについて語る。	夕霧と雲居雁は思いを寄せ合っていたが、娘を東宮妃にと目論む内大臣に引き離される。	夕顔の遣児・玉鬘は偶然光源氏と巡り会う。光源氏は花散里を後見として玉鬘を邸へ迎え入れる。	正月、紫上から順に女君たちを訪う光源氏。明石君から届いた明石姫君への贈り物に、娘と離れた彼女を哀れむ。	盛大な宴が催される光源氏の邸では、玉鬘への求婚者が後を絶たない。光源氏からも恋情を訴えられ、戸惑う玉鬘。	兵部卿宮は、光源氏が放った螢に照らしだされた玉鬘の美しさに心を奪われる。	夕霧らと釣殿で涼む光源氏。内大臣が引き取った近江君の悪評が話題にのぼる。	光源氏に心をひらいていく玉鬘。光源氏は玉鬘と琴を枕に寄り添い、篝火にたとえて歌をよむ。	野分(台風)の見舞いの最中、夕霧は紫上をはじめ女君たちの美しさに衝撃を受ける。	大原野へ行幸する冷泉帝に見惚れる玉鬘。光源氏は玉鬘に宮中への出仕を提案する。	出仕間近の玉鬘へ藤袴を手にと求愛する夕霧。求愛の歌が届くなか、玉鬘は螢兵部卿宮にのみ返歌する。
No.6, 18	No.9	No.26	No.20, 21	No.9, 21, 27	No.8, 21, 26	No.6	No.6	No.6	No.6, 26		

第三十一帖 <p>まきばしら 真木柱</p>	第三十二帖 <p>うめがえ 梅枝</p>	第三十三帖 <p>ふじのうらば 藤裏葉</p>	第三十四帖 <p>わかな 若菜上</p>	第三十五帖 <p>わかな 若菜下</p>	第三十六帖 <p>かしわぎ 柏木</p>	第三十七帖 <p>よこぶえ 横笛</p>	第三十八帖 <p>すすむし 鈴虫</p>	第三十九帖 <p>ゆうぎり 夕霧</p>	第四十帖 <p>みのり 御法</p>	第四十一帖 <p>まほし 幻</p>	第四十二帖 <p>におうみや 匂宮</p>
源氏 37~38歳	源氏 39歳	源氏 39歳	源氏 39~41歳	源氏 41~47歳	源氏 48歳	源氏 49歳	源氏 50歳	源氏 50歳	源氏 51歳	源氏 52歳	薫 14~20歳
玉鬘を強引に得た髭黒大将。心を病んだ正妻は、娘・真木柱たちとともに実家に引き取られてしまう。	明石姫君の入内が決まり、光源氏は薫物合を開催。螢兵部卿宮が判者を務める。	夕霧と雲居雁の結婚が認められる。光源氏は自邸に冷泉帝・朱雀院を迎え鶴飼を見せるなど厚くもてなす。	朱雀院が娘・女三宮を光源氏に降嫁させた。蹴鞠の最中に彼女の姿を目にした柏木は思いを募らせる。	女三宮、紫上らによる女衆を催すが、紫上が発病。光源氏が看病で不在の間に、柏木は女三宮と通じる。	女三宮は薫を出産後、罪の重さに出家。発病した柏木は、夕霧に正妻・落葉宮の後見を託し、死去。	夕霧は落葉宮の母から柏木の横笛を贈られるが、夢のなかで柏木に、笛は薫に伝えてほしいと告げられる。	夕霧は落葉宮の母から柏木の庭に鈴虫を放つ光源氏。十五夜の夜、女三宮のもとにいたところ、冷泉院の詩歌の宴に呼び出される。	落葉宮の母が送った、娘と夕霧との仲を問う文を雲居雁が奪ってしまう。怒った雲居雁は実家へ帰ってしまう。	死を見据えた紫上の法華経供養に人々が集う。夏、孫・匂宮に邸を託し、その秋、紫上は不帰の人となる。	引きこもり、出家の準備を進める光源氏。御仏名の日、久しぶりに姿を見せた彼はひときわ美しく、居合わせたものは涙した。	光源氏亡き後、薫と匂宮が目目される。養女の良縁を願う夕霧は正月の賭弓の還饗(宴席)に二人を招く。
	No.9, 19-1, 19-2	No.37	No.26, 27				No.20, 25	No.6			

第四十三帖 <p>こうばい 紅梅</p>	第四十四帖 <p>たげかわ 竹河</p>	第四十五帖 <p>はしひめ 橋姫</p>	第四十六帖 <p>しいがもと 椎本</p>	第四十七帖 <p>あげまき 総角</p>	第四十八帖 <p>さわらび 早蕨</p>	第四十九帖 <p>やどりぎ 宿木</p>	第五十帖 <p>あずまや 東屋</p>	第五十一帖 <p>うきふね 浮舟</p>	第五十二帖 <p>かげろう 蜻蛉</p>	第五十三帖 <p>てならい 手習</p>	第五十四帖 <p>ゆめのうきはし 夢浮橋</p>	
薫 24歳	薫 14~23歳	薫 20~22歳	薫 23~24歳	薫 24歳	薫 25歳	薫 25~26歳	薫 26歳	薫 27歳	薫 27歳	薫 27~28歳	薫 28歳	
按察大納言は娘を匂宮と縁付けようと紅梅の枝に託して意中を訴える。	玉鬘と髭黒大将との間に生まれた二人の姫は、多くの求婚者があるなか、大君は冷泉院、中の君は今上帝に仕えることに。	宇治で仏道に励む八宮を慕い、通う薫。三年後、月下で八宮の二人の娘を垣間見、大君に惹かれる。	八宮は姫たちの後見を薫に託し他界。薫は大君、匂宮は中の君を慕うが二人は取り合わない。	中の君と匂宮のために薫が紅葉狩を企画。やがて匂宮に夕霧の娘との縁談がもちあがり、憂えた大君は死去。	ひとり寂しく暮す中の君を匂宮は京の邸に呼び寄せる。	中の君と薫の接触に危機感をもつ匂宮。中の君は薫を避けるため、大君に似た異母妹・浮舟の存在を漏らす。	中の君は薫と浮舟を縁付けようとするが、匂宮が言いはる。薫は彼女を宇治へ匿うが、教養のない浮舟の扱いに悩む。	中の君は薫と浮舟を縁付けようとするが、匂宮が言いはる。薫は彼女を宇治へ匿うが、教養のない浮舟の扱いに悩む。	情熱的に迫る匂宮に惹かれる浮舟。宇治川対岸の小島に渡り時を過ごす。苦悩の末、浮舟は入水を決意。	浮舟の失踪による衝撃で匂宮は病に。薫も追善供養を営む。蜻蛉を眺め宇治の姫君を追慕する。	横川の僧都に救われた浮舟は、死に損ないを悔やみ手習に没頭。やがて僧都に願って出家してしまう。	浮舟の出家を聞き落涙する薫に僧都も後悔。薫からの手紙を、浮舟は悩みつつも拒絶する。
No.9				No.8	No.19-2			No.9	No.9	No.6	No.6	